

平成26年度 都道府県医療介護連携調整実証事業

第2回都道府県在宅医療・介護連携担当者
・アドバイザー合同会議(H26.10.09)

資料2-2

柏市における在宅医療の推進

～市行政の果たす役割～

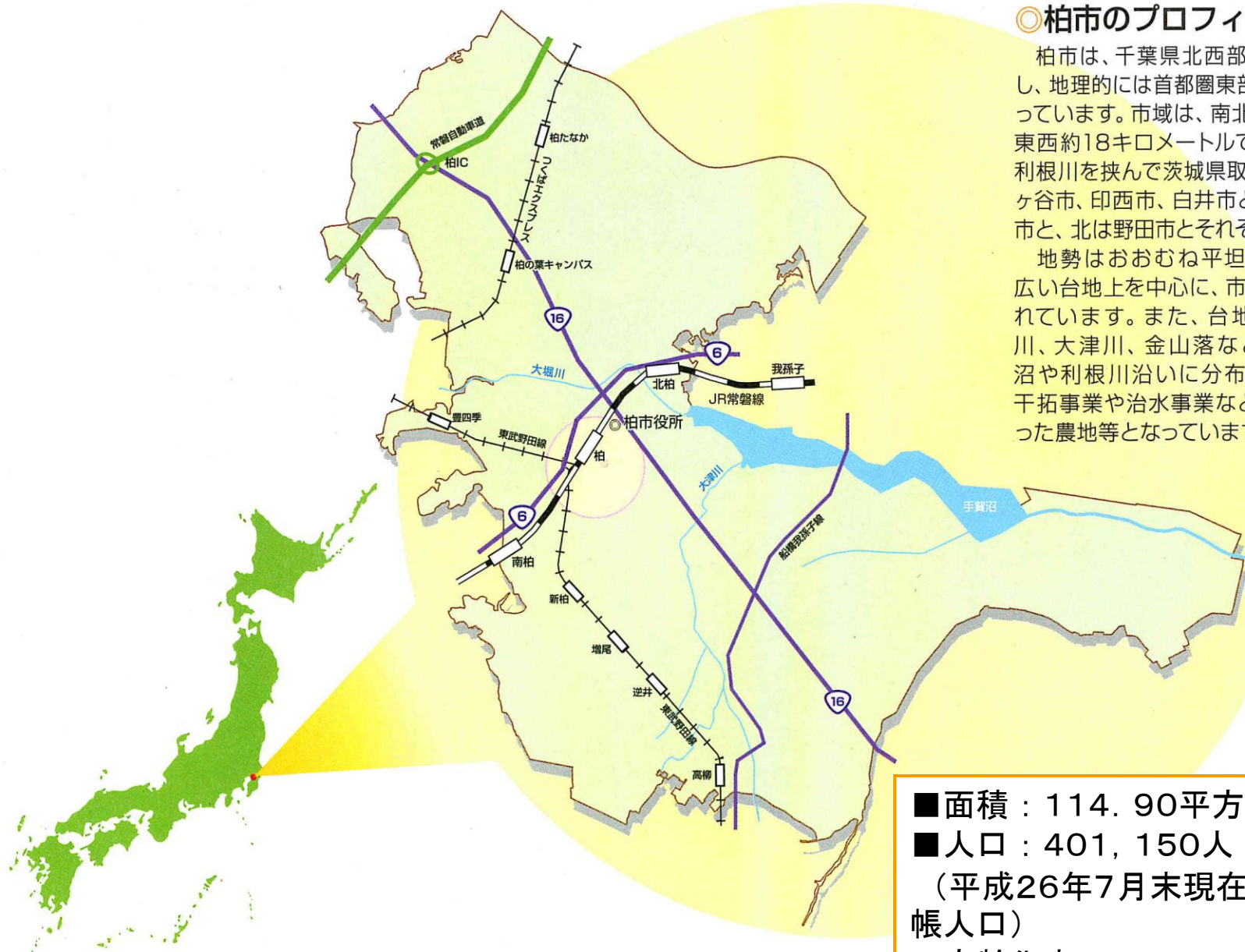
柏市 保健福祉部福祉政策課

柏市のプロフィール

◎柏市のプロフィール

柏市は、千葉県北西部の東葛飾地域に位置し、地理的には首都圏東部の中心的な地域となっています。市域は、南北約15キロメートル、東西約18キロメートルで、東は我孫子市及び利根川を挟んで茨城県取手市、守谷市、南に鎌ヶ谷市、印西市、白井市と、西は松戸市、流山市と、北は野田市とそれぞれ隣接しています。

地勢はおおむね平坦であり、下総台地の広い台地上を中心に、市街地や里山が形成されています。また、台地に入り込んだ大堀川、大津川、金山落などの川沿いや、手賀沼や利根川沿いに分布している低地では、干拓事業や治水事業なども進められ、まとまった農地等となっています。



■面積：114.90平方キロメートル

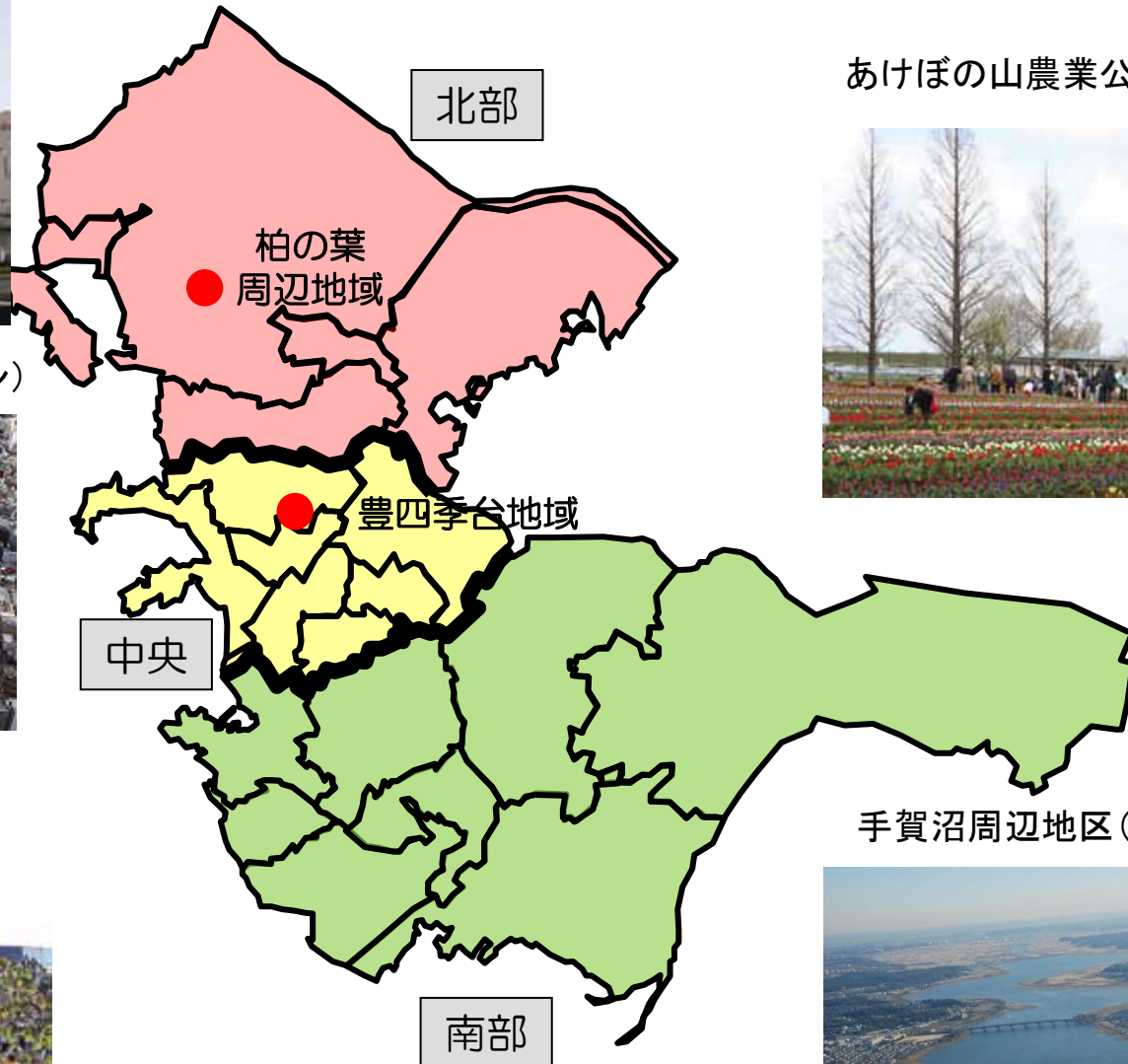
■人口：401,150人

(平成26年7月末現在・住民基本台帳人口)

■高齢化率：23.1%

柏市の紹介

柏の葉周辺地域の開発(北部ゾーン)



あけぼの山農業公園(北部ゾーン)



柏駅周辺の様子(中央ゾーン)



柏レイソル(中央ゾーン)

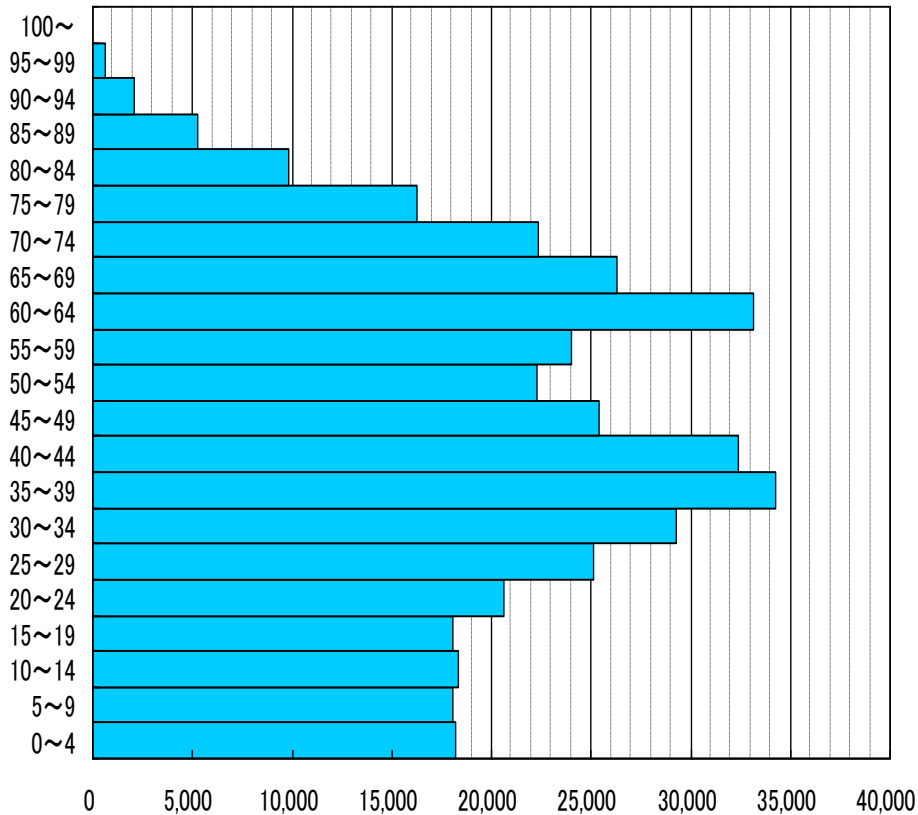


手賀沼周辺地区(南部ゾーン)



柏市が直面する高齢化の状況

現在の年齢別人口構成



75歳以上人口推移

・2010年:3万人



・2030年:7万人(2.17倍)


※全国の伸び(1.61倍)

千葉県伸び(2.02倍)

年齢別人口構成は平成24年度千葉県年齢別・町丁字別人口(平成24年4月1日現在)

※登録人口(住民基本台帳人口+外国人登録者数)

研究会が目指すまちの姿



休耕地や住宅地内で
セカンドライフ就農

地域全体で子育て応援
保育サービス


高齢者向け賃貸住宅と
在宅医療・看護・介護
サービス拠点

健康づくりと憩いの場
緑豊かな道・公園

住み慣れた家で
医療・介護サービスが
受けられる

**いつまでも在宅で安心して生活できるまち
～在宅医療の普及～**

**いつまでも元気で活躍できるまち
～高齢者の生きがい就労の創成～**



日常の「困った」を手助けする
生活支援サービス

在宅医療の推進主体について

<在宅医療の推進は、行政としてはどこが担うべきか？>

【在宅医療の推進にあたり必要な視点】

住み慣れた地域(日常生活圏域)におけるサービスの整備

訪問看護, ケアマネ, 地域包括支援センターなどの各種介護
保険サービスとの連携調整

 (都道府県ではなく)**市町村**が主体性を持ち、地域の
医師会等と連携して取り組むことが必要。

在宅医療推進の体制：市町村と医師会の連携

○平成22年度から保健福祉部(介護保険部局)に専属の部署（福祉政策室）を設置

H22:4人, H24:8人, H26:13人

(参考)

H26年 地域医療連携センターの職員:9人(うち常勤6人)

事務:2人 歯科衛生士:1人 保健師:3人

看護師:1人 社会福祉士:1人 臨床心理士:1人

○医師会とタッグを組み、多職種にも輪を広げる！

認識の共有→勉強会→医療WG→連携WG→ …

○第5期(平成24年度～平成26年度)の介護保険事業計画において、在宅医療の推進(介護保険事業と一体的に推進)を明記。(以下抜粋)

在宅医療の充実および医療と介護の連携強化が急務と考え、具体策として、千葉県地域医療再生計画に基づき、以下の施策に取り組む。

- ① 在宅医療に携わる医師の負担を軽減するシステムの構築
- ② 在宅医療の研修(多職種研修を含む)の実施
- ③ 市民への相談・啓発

在宅医療の課題と解決方針

患者・家族の悩み

「家に来てくれる医師はどこにいるの？」

「高齢者が増えるけど先生は増えるの？」

「色々なサービスが入ってくれて助かるけど、体のことなどそれぞれから聞かれるので大変」

「入院していた病院の情報を、訪問の先生は引き継いでくれてるかしら？」

「ずっと家でなんて無理。最後は病院でしょ」

課題

24時間対応の負担感や、専門領域外への不安等から在宅医師が増えない

医療職・介護職、それぞれがサービスを提供している

例) 介護職は医師に相談しづらい
病院の入退院時の引継ぎがない
リハビリの必要性が浸透していない

状態が悪くなると“入院しなくてはならない”という既成概念が強い

理想

一部の医師による「点」で支えるのではなく、市全体をカバーする「面」への広がり

医療職・介護職等、**多職種連携**による安心で質の高いチームケア

利用者（市民）が在宅医療の意義を理解している

柏市と柏市医師会がタイアップし、多職種を巻き込んだ関係づくり、市民への啓発を行おう！

在宅医療を推進するための取り組み

- 1 在宅医療に対する負担を軽減するバックアップシステムの構築**
 - ① かかりつけ医のグループ形成によるバックアップ(主治医・副主治医制)
 - ② 急性増悪時等における病院のバックアップ体制の確保
- 2 在宅医療を行う医師等の増加及び多職種連携の推進**
 - ① 在宅医療多職種連携研修の実施
→在宅医療を行う医師を増やし, 多職種連携を推進
 - ② 訪問看護の充実強化
 - ③ 医療職と介護職との連携強化
- 3 情報共有システムの構築**
- 4 市民への啓発, 相談・支援**
- 5 上記を実現する中核拠点(柏地域医療連携センター)の設置**

1 在宅医療に対する負担を軽減するバックアップシステムの構築

① かかりつけ医のグループ形成によるバックアップ(主治医・副主治医制)

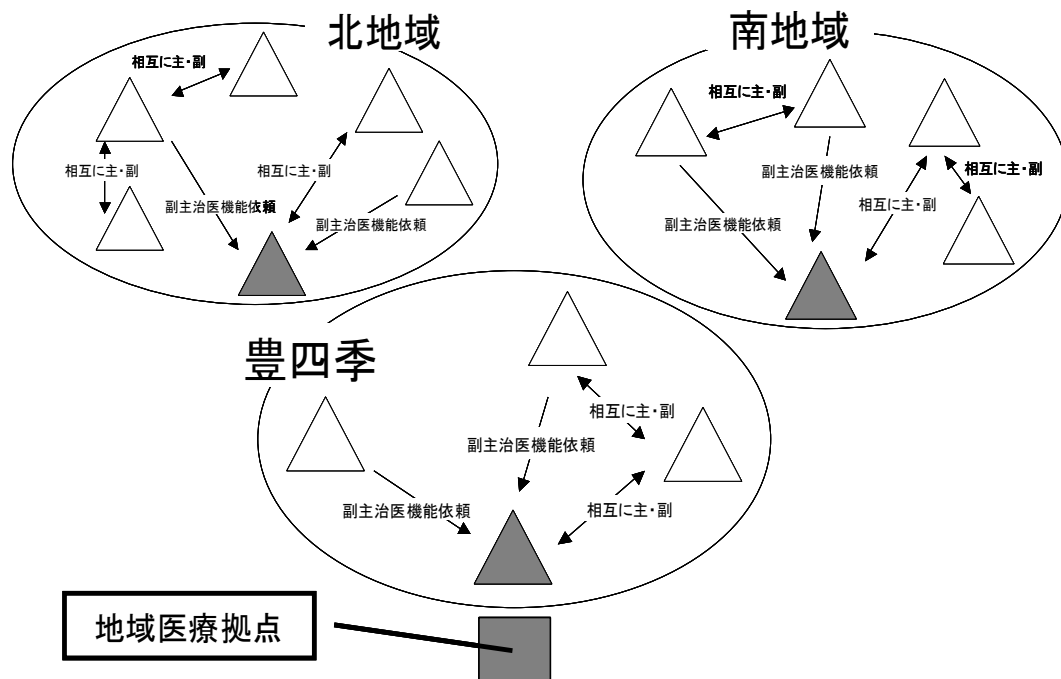
○ 共同で地域全体を支える体制の構築

→ 1つの診療所が数多くの患者を支えるだけでなく、多くの診療所が少しずつ支える事で多くの患者を支えるシステムを構築(「点」から「面」に)

○ 主治医・副主治医の仕組みの構築

→ 主治医(患者を主に訪問診療する医師)と副主治医(主治医が訪問診療できない時の訪問診療を補完する医師)とが相互に協力して患者に訪問診療を提供

△ : 主治医(可能な場合は副主治医) ▲ : 副主治医機能集中診療所 ■ : コーディネート等拠点事務局



2 在宅医療を行う医師等の増加と多職種連携

在宅医療多職種連携研修会

医師及び多職種を対象に在宅医療の推進及び多職種連携の促進を目的とした研修を実施（年1回程度）

第5回（H26年2/23及び3/16）

受講者（63名）

医師・歯科医師・薬剤師・病院関係者・
訪問看護師・介護支援専門員・理学療法士・
作業療法士・地域包括支援センター職員・
管理栄養士・サービス事業所職員等

実施者

主催：柏市医師会・柏市

共催：柏市歯科医師会・柏市薬剤師会・
柏市訪問看護連絡会・
柏市介護支援専門員協議会・
東葛北部在宅栄養士会・

柏市リハビリテーション連絡会
柏市介護サービス事業者協議会

協力：東京大学高齢社会総合研究機構
東京大学医学部在宅医療学拠点

後援：国立長寿医療研究センター

傍聴者（66名）

平成23年5月から5回実施
これまでに約270名受講



主な内容（第5回）

2014年2月23日（日）

13:00～18:00

医師・多職種

在宅医療の果たすべき役割（総論）

多職種連携協働IPW

在宅医療を支える多職種の役割（プレゼンテーション）

多職種WS①

在宅療養における看取り事例

特区の趣旨と概要

・訪問リハビリ
・歯科居宅療養管理指導

2014年3月16日（日）

9:00～17:00

医師・多職種

柏市の医療介護連携モデル

多職種WS②
緩和ケア

多職種WS③
認知症

報酬・制度

多職種WS④
在宅医療を推進する
上での課題と解決策

修了者が語る
訪問診療の実際

目標設定

修了式

医師は別途同行訪問研修を実施

2 在宅医療を行う医師等の増加と多職種連携

③医療職と介護職の連携強化

医療WG(H22.5~H24.3 20回)

医師会を中心に構成し、主治医・副主治医制度や病院との関係を議論

現在は、医師会「在宅プライマリケア委員会」で毎月議論

試行WG(H23.11~H26.1 10回)

多職種で構成し、多職種連携ルールについて、具体的症例に基づく試行と検証を実施 ※評価チームを設置

連携課題を議論し、顔の見える関係をつくる
5つの会議

連携WG(H22.7~H26.3 28回)

医師会、歯科医師会、薬剤師会、病院関係者、看護師、ケアマネジャー、地域包括支援センター等の代表者等で構成し、多職種連携のルールを議論し、決定

10病院会議(H24.2~ 10回(継続中))

救急告示医療機関とがんセンターの院長、MSWで構成し、在宅医療のバックアップや退院調整について議論

顔の見える関係会議(H24.6~8回(継続中)) ⇒ 延べ1,300名が参加
柏市の医療・介護関係者が一堂に会し、顔の見える関係を構築



※ いずれの会も事務局は市。

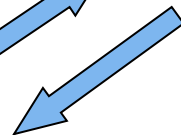
柏市の在宅医療・介護多職種連携の会議体制

在宅医療・介護 多職種連携協議会

※旧連携WG

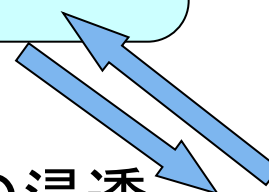
- ・多職種連携ルールの作成
- ・行政施策への反映

課題の抽出



ルールの浸透

課題の抽出



ルールの浸透

顔の見える関係会議

- ・多職種連携ルールの確認
- ・多職種の関係づくり

地域ケア会議

- 多職種による個別ケース検討



課題解決・共有

在宅医療・介護多職種連携協議会（旧連携WG）

＜目的＞医療・看護・介護の関係団体の代表が集まり、多職種連携の課題抽出や解決に向けた議論を行う。

※構成メンバー

- ・ 柏市医師会(会長【座長】・副会長・在宅プライマリケア担当理事，介護保険担当理事)
- ・ 柏歯科医師会（会長・担当理事）
- ・ 柏市薬剤師会（会長・担当理事）
- ・ 病院関係者（2病院の院長とMSW）
- ・ 柏市訪問看護連絡会（会長・副会長）
- ・ 柏市介護支援専門員協議会（会長・副会長）
- ・ 地域包括支援センター（センター長）
- ・ 東葛北部在宅栄養士会（会長・副会長）
- ・ 柏市在宅リハビリテーション連絡会（会長・副会長）
- ・ 介護サービス事業者協議会
- ・ ふるさと協議会
- ・ 千葉大学
- ・ 東京大学
- ・ 都市再生機構
- ・ 柏市福祉政策課（事務局）



→ 平成22年度より計28回の議論を経て、
「在宅医療・介護多職種連携 柏モデル ガイドブック」
を策定！

顔の見える関係会議

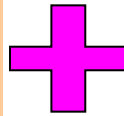
<目的> 多職種が一堂に会し、ワークショップ等を通じて、顔の見える関係づくりを推進し、連携体制を構築する。概ね年4回の会議を実施する。

全体会議

○年2～3回

○テーマの例

- ・多職種連携のコツを学ぶ
 - ・多職種の役割を知る
- ・事例を通じた連携の具体



エリア別会議

○年1～2回

○市内を北・中央・南に分けて開催

○テーマの例

- ・地域資源把握
- ・事例を通じた連携の具体
地域包括支援センターと医師会等
エリアの多職種が運営を行う。



※ファシリテーター会議にて事前に会議の進め方を調整する

<参加者構成>

医師（病院・診療所），歯科医師，歯科衛生士，薬剤師，看護師（訪問看護，病院・診療所），病院地域連携室職員，ケアマネジャー，地域包括支援センター職員，管理栄養士（在宅・病院），理学療法士・作業療法士・言語聴覚士，介護サービス事業者，介護老人保健施設・介護老人福祉施設職員ふるさと協議会・民生委員児童委員等市民，市役所職員等

顔の見える関係会議の開催状況

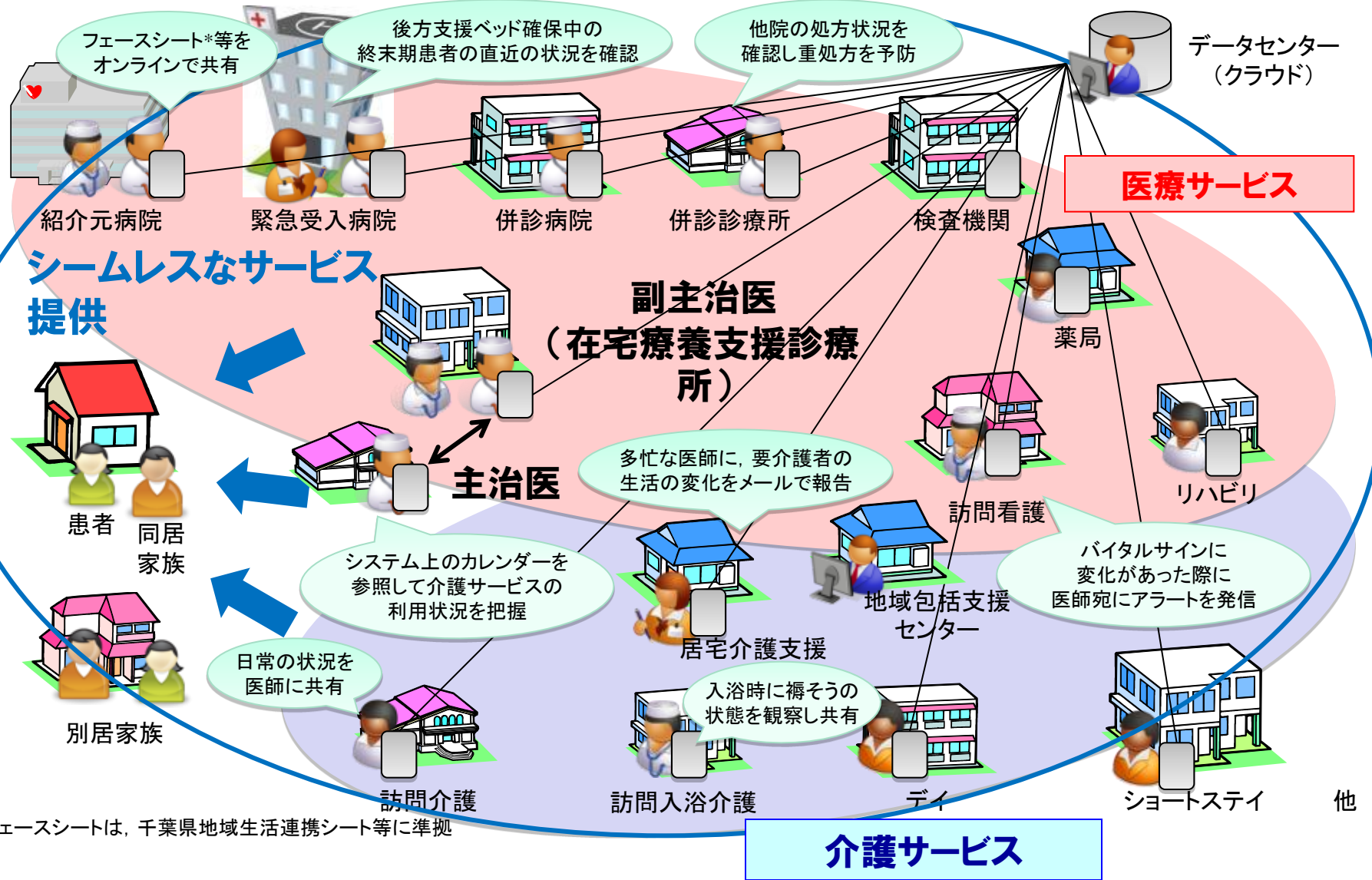
延べ参加者: 1, 325名

| | テーマ | 日時・参加者数 |
|-----|--|---------------------|
| 第1回 | 多職種連携「うまくいった点, いかなかった点」 | 平成24年6月21日(木) 144名 |
| 第2回 | 多職種連携推進のために, 各職種が在宅生活支援において何ができるか(お互いを知ろう) | 平成24年9月26日(水) 158名 |
| 第3回 | 多職種連携推進のために「地域資源を把握しよう」 | 平成24年11月28日(水) 174名 |
| 第4回 | 多職種連携の課題の解決策について「連携の柏ルールを提案しよう」 | 平成25年2月6日(水) 157名 |
| 第5回 | 多職種連携の実際を学ぼう『退院時共同指導』 | 平成25年7月4日(木) 186名 |
| 第6回 | 看取りについて学ぶ | 平成25年9月26日(木) 166名 |
| 第7回 | 認知症の方を支えるサービスについて | 平成25年12月5日(木) 162名 |
| 第8回 | 認知症高齢者に対する生活支援を考える | 平成26年2月5日(水) 178名 |

参加者の感想

- ・とても良い会議だと思いました。これからも続けていただきたい。病院関係者と在宅スタッフの顔の見える関係は必要だと思います(ケアマネ)
- ・柏市の医療機関の皆様のお話を直接伺うことができ大変感じ入るものがありました。ありがとうございました(民生委員)
- ・多職種からのアプローチの違いに関して良く認識でき, 色々な人が意見を出し合うことが大切だと思いました(薬剤師)
- ・様々な職種の視点がよく把握できた。また, 皆様が利用者(患者)を思う気持ちは一緒ということも痛感しました(理学療法士)
- ・在宅支援のために, 外来看護師に何ができるのか, 何を期待するのか, 色々な立場から教えていただきたいと思います(病院看護師)

3 情報共有システムの構築



* フェースシートは、千葉県地域生活連携シート等に準拠

タブレット端末、パソコン等により、関係職種同士がリアルタイムに情報共有

システム概要

患者・利用者部屋

株式会社カナミックネットワーク

TRITRUS

サンプル事業所のケアマネ 花子さん こんにちは。

コミュニティ

マイページ 参加コミュニティ一覧 介護カナさんの部屋

前の画面へ戻る

介護カナさんの部屋

本人家族招待 [利用者情報の名寄せ]

この部屋の管理者

サンプル事業所 ケアマネ 花子 →管理者機能

参加者

サンプル事業所

- ケアマネ 花子 主担当
- 栄養士 和子 副担当
- ヘルパー 千恵子

サンプル居宅介護支援事業

- ケアマネ 幸子 主担当

サンプル病院

- 医師 太郎 主担当
- 看護師 博美 副担当

説明・確認事項 基本情報・地図 住宅情報 家族情報 医療情報

身体・生活 認知・精神 社会 温度板 食事・排泄

この項目をクリックして表示・非表示できます→

血圧(上) 血圧(下) 体温 脈拍 SpO2

| 日付 | 血圧(上) | 血圧(下) | 体温 | 脈拍 | SpO2 |
|------------|-------|-------|------|----|------|
| 12/15 0:00 | 142 | 136 | 37.3 | 99 | 98 |
| 12/16 0:00 | 153 | 150 | 37.0 | 99 | 96 |
| 12/17 0:00 | 144 | 142 | 37.0 | 99 | 98 |
| 12/18 0:00 | 138 | 135 | 37.0 | 99 | 98 |
| 12/19 0:00 | 153 | 150 | 37.0 | 99 | 98 |
| 12/20 0:00 | 144 | 142 | 37.0 | 99 | 98 |
| 12/21 0:00 | 142 | 136 | 37.0 | 99 | 98 |
| 12/22 0:00 | 136 | 133 | 37.0 | 99 | 98 |

過去の記録を見る

フェイスシート 新規作成 サービスカレンダー おくすり手帳 アセスメント (認定資格書) 訪問介護ケアチェックシート タイムライン

ケアレポート

| トピック | 書込数(未読数) |
|------------------|----------|
| 利用者情報共有板 | 3(未2) 20 |
| 重要)蕎麦アレルギーについて | 3(未1) 20 |
| 臭い気味?! | 1(未0) 20 |
| アルコールゼンザ予防接種について | 3(未0) 20 |
| サービス担当者会議の開催の件 | 2(未0) 20 |

ページの先頭へ戻る

患者ごとに部屋を作成

患者ごとの定型化された連携情報

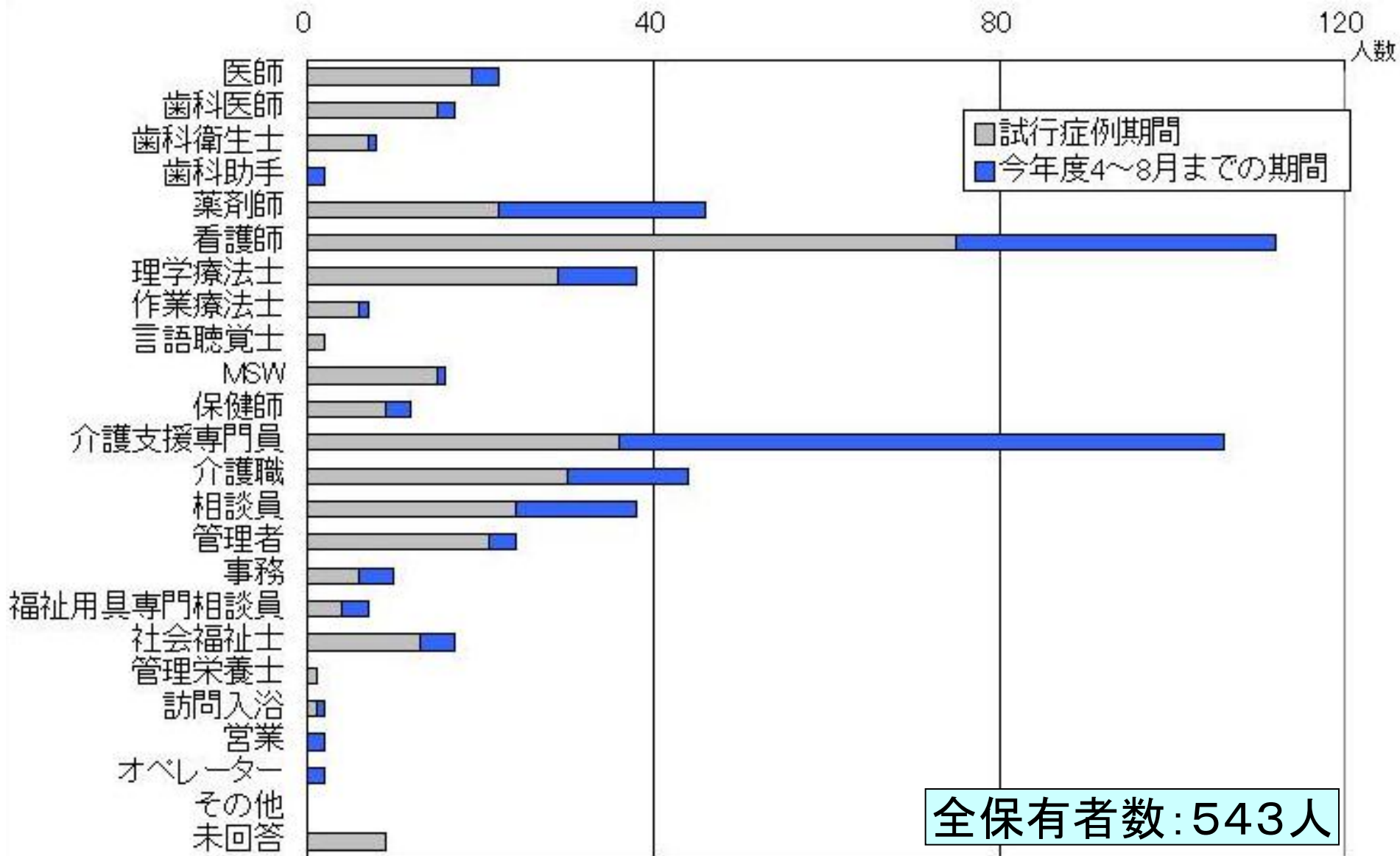
- ・フェイスシート(連携基本情報)
- ・アセスメントシート(アセス情報)
- ・温度板(日々の変化情報)
- ・カレンダー(関係者予定)
- ・お薬手帳(薬剤情報共有)

患者を担当している関係者のみが部屋に入れる。

日々の変化を共有するケアレポート

- ・連絡帳
- ・ケアプラン
- ・訪問看護指示書
- ・診療情報提供書等

職種別ID・PW発行状況



4 様々な市民啓発の取り組み

広報 **かしわ** 3.1

みんなでつくる 安心、健康、元気のまち 柏

We Kashira 60th Anniversary 柏市は今年市制施行60周年

平成26年(2014年) No.1452

主な内容 P16-3月差別の廃棄、自治体少子化対策への対応 P17-3月差別廃棄後化月報、漁業方針 P27-新幹線開業ニュース

〒277-8505 千葉県柏市松戸10番1号 電話(04)7167-1111 柏(04)7164-6026 編集局 03 5811-1111



家族に寄り添う 在宅医療

柏市をはじめとする都市部では、今後急速に高齢化が進みます。今号では、皆さんが安心して老後を迎えられるように、市が取り組んでいる在宅医療について紹介します。

図幅社政策室☎7167-1171

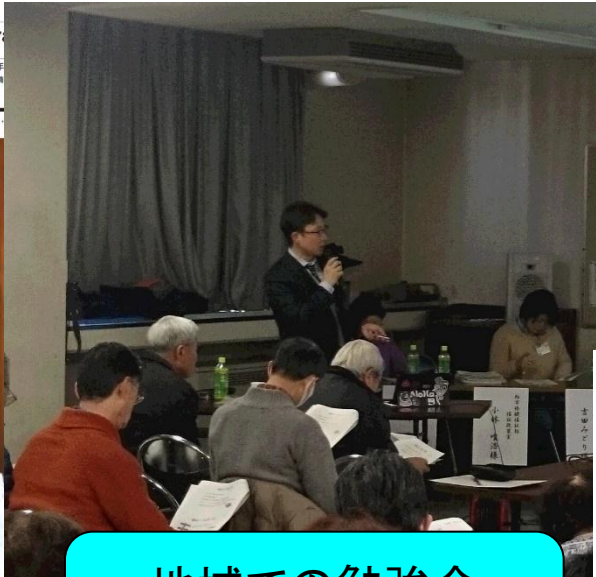
見聞がすてきな小野田さん・久子さん夫妻(74年10月)

「ワカライール」
今週ご登場いただいた久子さんは、くも膜下出血のため月2回の入院を経て、介護施設に入居。現在毎日自宅で暮らしています。当初、介護施設の介護士に話したり、出歩いたりすることができませんでした。しかし、3月に在宅医療の力がかり、歩行支援ができて歩き出すことができています。少しずつですが、歩いていける時間も長くなりました。

ご自宅はいかがですか
おかげで元気な日々を送っています。お父さんもお母さんもお元気です。最初は言葉を覚えるのがやっとだったけど、よくけんかをしてたまたまのように話せるようになりました。

相談はどんなケアをされていますか
右足に少し腫れしびれを緩和するために、家の周りを歩かせています。もちろん、室内でも歩く練習をしています。少しずつですが、歩いていける時間も長くなりました。

相談はどんなケアをされていますか
見えてくれる皆さんからですね。昔は「おばあちゃんおれい」って愛護してくれて、お父さんは日本の生活を支えてくれる。毎朝お風呂に来てくれる先生もそう、そういふ知識がないから先生に話しかけています。それに、また元気な姿で友達に会いたいです。あれこれ先生は話しかけていて、心配をかけたままに早く来て、元気な姿を見せてほしいです。それだけお父さんお母さんお元気です！



地域での勉強会 (医師・看護師の講演)

広報かしわ (3月1日号1面・2面)

在宅医療情報誌「わがや」(個別配布)

在宅医療情報誌 わがや 第3号 (平成26年3月9日 土曜日)

安心して暮らし続けるための 柏のまちづくり

柏市では、柏市医師会をはじめとした医療や介護の専門職の方々や、市民とともに、「柏地域医療連携センター」を中核として運用する在宅ケアのシステムを作り上げてきました。第3号では今後、「かしわ」の超高齢社会を見据えたまちづくりが、どのように進んでいくのかお伝えします。

医療や介護が必要になったとき...
地域は変わる! **柏プロジェクト**

在宅でのケアが必要となったとき、例えいかな。地域を1つの病院として、病院長の役割を地域の医師会長が、病院の事務長の役割を柏市の医療・介護の専門職の方々を介護保険制度の中核とする市独自の介護保険推進課が担えば、誰でも、病室と同じような医療や介護のサービスが受けられると考えています。柏プロジェクトはそのような仕組みづくりを進めています。

3月1日号掲載「かしわ」にも、取組の実態をご報告しています。

地域=病院

小規模多機能 在宅ケア 在宅医療 在宅介護 在宅看護 在宅ケア 在宅医療 在宅介護 在宅看護

わがや 病室

市民集会 2014 本日開催!!

【柏地域の概要】 柏市豊田寿台1-1-118

1階 総合窓口(柏市福祉政策課)、研修室
2階 柏市医師会、柏市看護師会、柏市薬剤師会 等

【柏における在宅医療のシステムづくり】

柏市医師会では、柏市、東京大学とともに「いつまでも地域で暮らすことができる社会」を目指して取り組んでいます。

また、いつまでも地域で暮らすためには、医療だけでなく、介護など多くの専門職のメンバーの力が不可欠です。お互いに連携がうまくできるように、多くのメンバーが集まる市民会や市民会を実施し、連携しやすい環境づくりを行っています。

平成26年4月から地域医療連携センターがオープンします。在宅医療の窓口が広がり、住民のみならずより身近に在宅医療を考えたいだけのようにも期待されています。センターと全体的に協力しなからよりよい在宅医療を提供していきたいと考えています。

柏市医師会在宅ケア・リハビリ委員会 委員長 藤田啓秀

様々な場面で市民の皆様を知っていただく取り組み

秘訣は 運動と社会参加!

元気なうちは、なるべく外出して、友人・知人との楽しい時間を過ごしたり、地域で趣味のサークルやまちづくりに取り組んだり、積極的な社会参加をしていくことが大切です。こうした社会参加活動に取り組む人は、歩行障害や認知症の発生リスクが低いという調査結果があります。

外出頻度と歩行障害の発生リスク

| 外出頻度(1週間) | 歩行障害の発生リスク(2週間) |
|-----------|-----------------|
| 1日1回以上 | 1.0 |
| 2-3日1回 | 1.5 |
| 4-6日1回 | 2.0 |
| 7日1回以上 | 2.5 |

外出頻度と認知症の発生リスク

| 外出頻度(1週間) | 認知症の発生リスク(2週間) |
|-----------|----------------|
| 1日1回以上 | 1.0 |
| 2-3日1回 | 1.5 |
| 4-6日1回 | 2.0 |
| 7日1回以上 | 2.5 |

■ わがやのバックナンバーは柏市のHP「内閣府推進ページの」からダウンロードできます。http://www.city.kashiwa.jp/jssokishi/060200/index.html

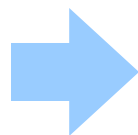
5 柏地域医療連携センターの本格稼働

柏地域医療連携センターの概要

- **柏市医師会・柏歯科医師会・柏市薬剤師会**の共同で、柏市豊四季台団地の中心部に建設(2階建て:約1,000㎡)
- **柏市福祉政策課**(在宅医療担当)が引越し
- 地域医療の推進と多職種連携の拠点

柏地域医療連携センターの機能

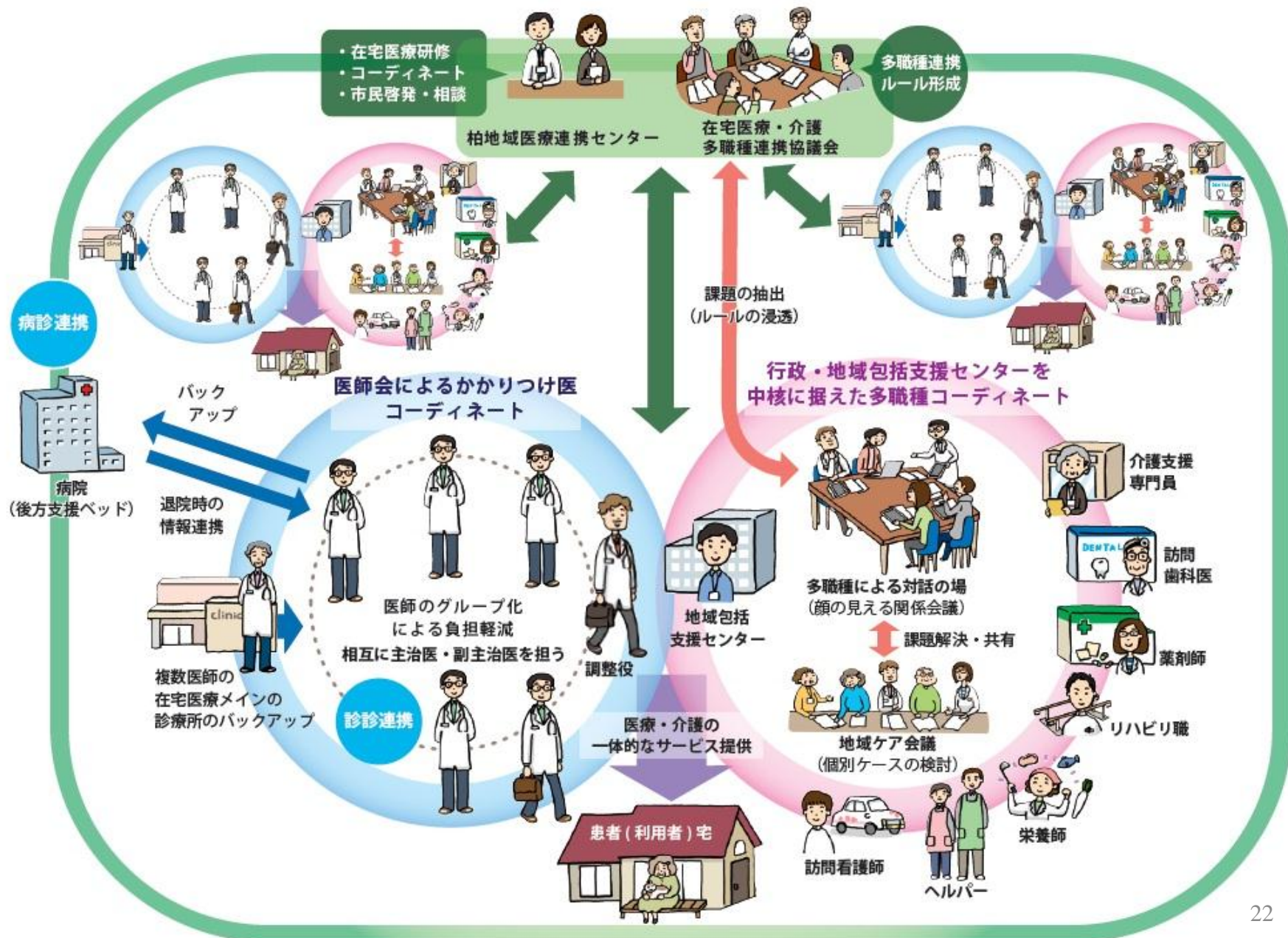
- 患者が病院から在宅に戻る際の調整支援機能
主治医・副主治医, 多職種の推薦
- 医師・多職種による在宅医療・看護・介護のコーディネート機能
- 在宅医療に係る主治医及び副主治医の研修機能
- 市民相談・啓発機能



平成26年4月から稼働



柏プロジェクトにおける在宅医療・在宅ケアシステムのイメージ図



これまでの取組みの成果

○ 在宅医療研修 修了者数

・247人(うち, 医師44人)

○ 在宅療養支援診療所数

・15箇所(H22年11月)→28箇所(H26年3月)

○ 訪問看護ステーション数

・12箇所(H25年2月)→18箇所(H26年4月)

○ 柏市の在宅診療所による年間自宅看取り数

・53件(H22年度)→110件(H24年度)

○ 年間3人以上自宅で看取った在宅診療所数

・5箇所(H22年度)→12箇所(H24年度)

○ 多職種連携ICTシステムID発行数(H26年8月末)

・543名(多職種)

・176事業所

在宅医療の推進【まとめ】

<成果>

- **市町村(介護保険者)と医師会が連携**し呼びかけを行うことにより、**全ての多職種団体を網羅し、連携の枠組みが構築された。**
- こうした枠組みの中で多職種の関係づくりや連携のためのルールづくりを行うことにより、在宅医療の**面的な(全市への)広がり**が期待される。

<今後の展開>

- **在宅医療・多職種連の全市への拡大(病院や施設との連携も)**
- 平成26年4月にオープンした**柏地域医療連携センター**を拠点とした市民相談・啓発の本格化

【お願い】 各都道府県のご担当者様へ

- 柏市における長寿社会のまちづくり(在宅医療・生きがい就労)については、現在、全国の市町村や医師会から月間30件程度の視察依頼をいただいています。
- 特定の都道府県内の市町村から同時期に多数ご依頼をいただくこともあり、調整にかかる事務も含めて大きな負担となっています。
- このような状況に鑑み、可能であれば、各都道府県において市町村担当者等をまとめて集めた勉強会等を開催していただき、当市の職員等が出向いて事例報告・意見交換をさせていただくような方法をご検討いただけますと幸いです。
- お手数おかけいたしますが、どうかご協力の程お願いいたします。